

お知らせ

発行:2017年7月20日

●Topics…米国メイヨークリニックを視察 ●診療科の取組案内(脳神経外科及び第二内科)
●Topics…監査委員会の設置 ●Information…「やまがた小児在宅医療シンポジウム」開催のお知らせ

Topics

「患者のニーズが第一」を理念に掲げる米国メイヨークリニックを視察しました

平成29年5月29日から6月3日にかけて、山形新聞・山形放送8大事業「日本の『ロチェスター』を目指して～世界屈指の医療先進都市に学ぶ～」(団長:嘉山孝正山形大学医学部参与)に山形大学医学部から8名の教職員を派遣しました。

今回の視察は、人口10万人の小都市ながら、世界中から100万人を超える患者と家族が訪れる医療先進都市ロチェスター(米国ミネソタ州)におけるまちづくり・地域づくりを学び、山形での医療インバウンド推進のた

めのヒントを得ることを目的としております。

当日は、メイヨークリニックの歴史、ホスピタリティの在り方、International Centerでの外国人患者の受入支援体制などを視察しました。

今回の訪問には、山形県、山形市、医師会、民間企業などから総勢36名が参加し、山形での医療インバウンドの推進に向け、オール山形の体制で協力していくことが確認されました。



メイヨークリニックで説明を受ける訪問団

診療科の取組案内 脳神経外科

最新の医療機器を駆使した脳神経外科治療

‘基本的診療領域’である脳神経外科では、神経系に対する手術だけでなく、その術前術後管理、血管撮影などの画像診断、脳卒中や頭部外傷の救急対応とその外科的/非外科的治療から患者さんの長期予後管理まで神経系の病気を一貫して担当しており、その対象疾患は脳腫瘍、脳卒中、脊椎脊髄疾患、頭部外傷、てんかん、機能的疾患、小児脳疾患など多岐にわたります。

当科では、高度先進的な診断・治療機器(3.0T MRI、PET、術中1.5T MRI、ハイブリッ

ド手術室)を駆使して、日常良く遭遇する頭痛などの一般的疾患の診療から、大学病院でこそその集学的治療が必要な診断治療困難なケースまで、県内にとどまらず広い地域の患者さんの受診や多くの医療機関からの御紹介を頂いております。

また、救急医療にも力を注いでおり、脳卒中や頭部外傷など24時間体制でいつでも診断治療が可能です。さらに、他科との連携などにも積極的に

取り組み、患者さんにとって最良の医療は何かということを中心に考え治療を行っています。



診療の様子

◎ MultimodalityとCollaborationによる脳腫瘍診療

山形県における脳腫瘍治療の拠点として多くの症例を扱っています。診療においては高次脳機能評価やMRI、PET/CTなどの画像による術前評価を徹底し、手術では各種モニタリングシステム、内視鏡、ナビゲーション、術中MRI

を用いたより安全・確実な手術を行っています。また、種々の脳腫瘍について標準治療のみならず臨床試験も積極的に導入しています。

手術、放射線治療、化学療法、および緩和治療についてCTB(Cancer Treatment Board)で

各専門分野間での意見交換を行い、症例に応じたオーダーメイド医療を実現。さらに病棟、外来、リハビリとそれぞれの医療スタッフの綿密な情報交換により一貫した治療の流れを作っています。

◎ 多軸可動型透視撮影装置を有するハイブリッド手術室

本院では平成27年9月から多軸可動型透視撮影装置を有する最先端ハイブリッド手術室が稼働しています。

当科では、手術室という清潔・安全な環境下で、三次元立体構築された透視や造影画像を駆使し、脳動脈瘤塞栓術や脳動脈奇形塞栓術のほか、脳梗塞に対するステント留

置術・血栓回収療法のみならず、従来の開頭手術とこれまで血管造影室で行っていた血管内治療とを組み合わせることにより、例えば治療困難な巨大脳動脈瘤に対してもバイパス手術と血管内治療を組み合わせるなど高度な治療を行っています。

開頭手術、血管内治療の一方だけでは対応

困難な場合でも更なる処置を追加施行することでより安全・確実な治療を行うことが可能となっています。

脳神経外科では今後も患者さん一人一人にとって最善の医療、最先端の医療を提供できるよう努めてまいります。

<消化管診療チーム> 最先端の診療で挑む消化管のトータルケア

消化管疾患は、悪性腫瘍から胃食道逆流症、ヘリコバクターピロリ感染症などの良性疾患、原因不明の難病である潰瘍性大腸炎、クローン病といった炎症性腸疾患など、多岐にわたります。最新の高精細な内視鏡による正確な診断に基づき、効果的でより安全な治

療を行い、また難治例の治療法や病態解明を目指し、その研究にも取り組んでおります。カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡による小腸疾患の診療実績は県内随一です。一方で患者さんの苦痛軽減や利便性を考え、細径(経鼻)内視鏡検査や大腸ポリープの外來

切除も行っております。炎症性腸疾患の寛解導入・維持率向上のため、生物学的製剤や免疫調整薬、血球除去(外來でも実施可)などの治療を積極的に行っております。今後も消化管疾患の原因究明と根治治療の開発に挑み続けたいと考えております。

<肝臓診療チーム> 最新の肝炎、肝硬変、肝癌の診療

近年進歩の著しいB型肝炎やC型肝炎に対する経口抗ウイルス療法をはじめ、肝癌に対する経皮的治療(ラジオ波焼灼術)や、非アルコール性脂肪性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎などの診断・治療も行っています。肝疾患の診断には画像診断や肝生検

他にも、ファイブロスキャンを用いた非観光的な肝線維化・脂肪化の評価も行っております。また、劇症肝炎を含む急性肝不全などは血漿交換や呼吸管理も必要になりますので、他科とも連携を密に取りながら治療を行っています。食道胃静脈瘤に対しては積極的に内視鏡

的硬化療法を行っており、静脈瘤の破裂などの急変時にも対応しています。さまざまな疾患の開発臨床試験にも参加しており、今後も最新の診療を通して山形県の医療に貢献できるよう努めてまいります。

<胆膵診療チーム> 最新かつ安全で確実な胆膵疾患の診断と治療

当科では高度で先進的な医療を提供するために、CT・MRI・PET-CT・超音波内視鏡検査、内視鏡的膵胆管造影検査を駆使して、膵胆道疾患の精査及び治療を行っています。膵臓癌、胆道癌などの悪性腫瘍や膵嚢胞性腫瘍に対しては可能な限り病理組織学的診断に基づいて治療法を決定しています。急性膵炎・慢性膵炎、自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎などに対しては、最新の知見をもとに最良の治

療法を行っています。また、一般的な胆管結石に対しても経験豊かな内視鏡学会指導医を中心として、安全で確実な内視鏡治療を提供しています。県内各地から確定診断困難症例や内視鏡治療困難症例の紹介を多数受け入れ、今後も県内膵胆道疾患治療の中心として、日々努めてまいります。



内視鏡治療の様子

Topics

国立大学法人山形大学医療安全管理に関する監査委員会を設置

山形県内唯一の特定機能病院である本院では、平成28年6月の医療法施行規則等の改正を受け、「国立大学法人山形大学医療安全管理に関する監査委員会」を設置しました。

監査委員会は、医療安全管理責任者や医療安全管理部等の業務の状況について確認し、万一不備がある場合には、改善を求めるという役割を果たします。委員は、医療安全管理や法律の有識者、医療を受ける立場の者等で構成され、半数以上が本院と利害関係のない方々です。

7月5日(水)に第1回目となる委員会が開催され、根本病院長から委員の紹介及び監査委員会設置の経緯説明、医療安全管理責任者である佐藤副病院長から本院の医療安全管理に関する取組みについて説明の後、平成29年度監査計画について審議し、監査項目等を決定しました。

今後、監査委員会から本院の医療安全管理業務を監査いただき、より安全に資する医療の提供体制が構築されることが期待されます。

区分	所属機関・役職	氏名
委員長	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長	栗谷 義樹
副委員長	山形県健康福祉部医療統括監	阿彦 忠之
委員	山形大学理事(病院担当)	久保田 功
委員	山形大学学術研究院准教授(人文社会科学部担当)	西岡 正樹
委員	山形家庭裁判所家事調停委員	佐多 和子

※任期:平成29年4月1日~平成31年3月31日

Information

「やまがた小児在宅医療シンポジウム」開催のお知らせ

申込方法

1. インターネット

以下のURLから、申込みフォームに必要な事項をご記入の上送信願います。
<https://goo.gl/forms/KRNJACcYg1P6Iw3m2>

2. FAX(023-628-5332)

氏名、性別、住所(市町村のみ)、ご職業など(医療関係、福祉、行政、患者様ご家族など)、メールアドレスをご記入の上、山形大学医学部小児科学講座(FAX:023-628-5332)に送付願います。

申込締切 **9月30日(土)**